

2016年5月GW「西穂標&焼岳」 山行報告

(L) 河野 (SL 会計) 上島 (SL) 加田

(1) 山域 北アルプス

(2) 山行地 西穂独標&焼岳 (北峰標高 2,444.3m)

(3) 山行日 2016年5月3日 (祝・火) ~5月5日 (祝・木)

(4) 集合場所&集合時間 バスタ新宿 4F 待合室 6時40分集合

(5) 往路移動 バスタ新宿 7:05=(路線バス)=平湯温泉 16:00(当初到着予定 11:35)

(6) 山行初日 (5月3日) 晴れ 渋滞&交通事故で大幅遅延。山行なし。

強風で新穂高ロープウェイが運休。西穂山荘に上がれず、懸命の宿探しの結果、中尾温泉の旅館&民宿に宿泊。平湯温泉17:13=(タクシー)=17:33中尾温泉「まほろば」ほか

(7) 山行2日目 (5月4日) 晴れ時々曇り 宿の送迎車で第2ロープウェイ着後に西穂独標を目指す、強風によるロープウェイ運休の恐れがあり西穂山荘で引き返す。新穂高ロープウェイの展望台で展望を楽しみ下山。

(コース&タイム) 実働4時間35分

新穂高第2ロープウェイ西穂高口8:45⇒10:30西穂山荘 (昼食) 11:50⇒ロープウェイ西穂高口13:20

(宿へ移動)

新穂高ロープウェイ14:55=(路線バス)=15:29平湯温泉 (乗換) 16:00=(路線バス)=16:10中の湯 (乗換) 16:15=(送迎車)=16:22中の湯温泉旅館

(8) 山行3日目 (5月5日) 曇り時々晴れ 中の湯温泉旅館からピストンで焼岳を登頂。

(コース&タイム) 実働8時間42分

中の湯温泉旅館6:08⇒8:40広場 (アイゼン装着) 8:50⇒10:20焼岳のコル10:25⇒10:45焼岳山頂11:00⇒11:22焼岳のコル11:33⇒12:40広場 (昼食) 13:05⇒14:50焼岳登山道入口

(宿へ移動) 焼岳登山道入口15:00=(ジャンボ&タクシー)=中の湯温泉旅館15:10

(復路 移動) 中の湯温泉旅館15:20=(ジャンボ&タクシー)=JR松本駅16:50

(懇親食事会) JR松本駅傍の手打ち蕎麦や「樽木野」(くれきの)で舞茸天ぷらなどを堪能。

樽木野 駅舎店 TEL0263-38-0803 (JR松本駅東口 MIDORI松本店1F)

(帰途電車) 松本18:45(遅延) = (特急スーパーあずさ32号) = 新宿21:16

参加者:河野(L)、上島(SL)、加田(SL)、三浦、伊藤、岩堀、鈴木夫妻、市川、山下
(敬称略10名)

(山行感想記)

真新しいバスタ新宿を定時に出発した路線バスでしたが、GWの混雑で相模湖付近を先頭に40Kmの大渋滞。トイレ付車両で心配はないが、相模湖付近を通過後は順調に松本インターを下り山深く入って行く。すると追い越し禁止車線の谷間のトンネル内(乗鞍分岐の信号交差点の手前)で突然バスが止まる。運転手のアナウンスでは、交通事故らしい。2時間以上バスは動かなかった。通行解除になると事故現場に大型バスと乗用車(正面衝突)がある。長時間バスの中に缶詰となったが、やっと平湯温泉に16時に到着。11時35分到着予定でしたから、4時間半の大幅遅延となってしまった。

もうGW期間中の朝立ちの路線バスは、大渋滞を覚悟なので乗りたくないのが本音です。もっとも定時に平湯温泉に着いたとしても、3日の午後は強風でゴンドラが運休してたらしく、西穂山荘には辿り着けなかったようですが。さて山行の本題です。

翌朝一番の臨時運行(8:15発)に乗って、新穂高第2ロープウェイ西穂高口でアイゼンを装着してから山行開始。最初はなだらかな斜面の樹林帯を歩き、西穂山荘の直下30分強はかなりの急斜面をバイトする。終始樹林帯なのであまり展望はよくない。西穂山荘に10時30分到着。西穂独標までは往復正味2時間30分。山荘の方が今日もゴンドラは強風で運休になる恐れがあるので早く下山したほうが良い、とのこと。独標の頂きに立つ時間的余裕はある。

しかしゴンドラが運休したら下山できず、明日5日の焼岳は断念せざるを得ない。

山荘内外で各自昼食(6名は名物の西穂ラーメン900円を食す)してから、下山した。

西穂高口展望台からの360度の展望が素晴らしく、西穂山荘、西穂独標、西穂高岳、ジャンダルム、槍ヶ岳、笠ヶ岳、焼岳などが美しい。特に端正な円錐形の笠ヶ岳は見事なお姿である。前日運休したこともあるかもしれないが、時間帯的にも観光客で大混雑の展望台でした。中の湯までバスで下りて、秘湯を守る会会員の中の湯温泉旅館の温泉と夕餉を満喫した。

さあ、最終日は日本百名山の焼岳、今回のメインイベントである。

サブリーダーを会長から指名され、15時までに温泉に下山を目指しながら6時登山開始。

私が入会してから初めて参加の噴火活動中の活火山登山である。歩きはじめから1時間近くはほぼ積雪のない樹林帯。やがて積雪が現れ、見晴らしの良い「広場」に着きアイゼンを装着。目前に焼岳への斜面が見え、徐々に高度を上げてゆく。森林限界を噴煙の臭いを感じながら、南峰と北峰の間の稜線(コル)に着く。目の前にもうもうと噴煙が上がる。ここからは更に気を引き締めて、岩稜帯を慎重に確実に登り、10時45分ついに焼岳山頂に立つ。

山頂からの360度の展望と高度感に痺れる。眼下に梓川と上高地が見える。高度2,500m上空に雲の帯があり、残念ながら穂高連峰や槍ヶ岳は観れなかったが、大きな達成感を得ました。下りは雪の斜面を滑落や転倒しないように慎重に確実に下山した。私にとって23座目の百名山は上高地から見慣れた憧れの岩峰であり、迫力満点でした。山と会に感謝いたします。

(2016年5月7日:SL加田報告)